

基本指針の自己チェック

- ◆私たちの仕事は、ただ数時間、利用者を預かって終わりではない。
その先、つまり自宅に帰ってからのことも意識すべし。
 - 穏やかな精神状態で帰宅させているか？
 - 家族の、洗濯や排泄介助の負担、安眠のことまで視野に入れているか？

- ◆利用中はよく動き、よく笑い、よく食べてもらおう。自宅でもよく眠れるように。
 - テレビに利用者の「介護」をさせていないか？
 - 利用者を、座らせようとばかりしていないか？
 - 利用者の過ごし方に「静」と「動」のメリハリはあるか？

- ◆最大最良のリハビリは、家事や遊び、おしゃべりなどの日常生活の中にある。
 - 利用者のできることは利用者本人にしてもらっているか？
 - 利用者に対し、できる家事や作業などに積極的に誘っているか？
 - これらは、身体や頭（脳）だけでなく、心のリハビリでもあることを意識しているか？

- ◆利用者と職員は一方向でなく、双方向の関係を。
 - 利用者に「（家事などを）やらされている感」は持たれていないか？
 - 一緒に家事、作業をし終わった後、きちんと感謝を伝えているか？
 - 利用者に助けられたり、支えられたり、教えられたりする場面はあるか？
 - 利用者に対し、指導的、教育的、指示的な接し方になっていないか？
 - ゲームや会話などをする時、一緒に楽しんでいるか？
 - 脇役であるべき職員が主役になっていないか？

- ◆ケアは業務の延長ではなく、人間関係の延長である。
 - ケアが流れ作業的になっていないか？
 - 時間だけではなく、利用者、職員の様子や状況を見て動いているか？
 - その場限りのケアではなく、次につながるケアができているか？
 - 画一的なケアではなく、それぞれの利用者に個別ケアをしているか？
 - お互いにケアし合えるように、利用者同士をつなげようとしているか？
 - ケアの最終目標は信頼関係の構築であることを意識しているか？

- ◆認知症ケアに必要なのは、想像力と創造力。
 - 利用者の言動を観察し、その時々気持ちや思いを想像しているか？
 - 想像したことをもとに、その後の利用者の言動を予測しているか？
 - アプローチの方法を自分で考え、チームで利用者に働きかけているか？

- ◆「目的」と「手段」を明確に。日頃から考えることを習慣にすべし。
 - 目の前の出来事の「目的」と「手段」をきちんと区別できているか？
 - 今していること、これからすることの「目的」を都度、考えているか？

- ◆利用者から見えないところでは手早く、見えるところではゆったりと、一緒にするときには、もっとゆったりと。
 - 朝の掃除や、夕方の片付けなどをテキパキとしているか？
 - 利用者の前で、ソワソワ、バタバタして、不安をあおっていないか？
 - バタバタしなくてすむように、きちんと段取り（下準備）をしているか？
 - 一緒に何かをするとき、利用者のペースに合わせているか？
 - 歩く時の、スピードや足音にも気を付けているか？

- ◆私たちは利用者を見ている。でも同時に、私たちも利用者に見られている。
 - 自分の表情やしぐさ、言葉遣いなどが利用者の精神状態に影響することをわかっているか？
 - 利用者を人生の先輩として尊重しているか？ 子供扱いしていないか？
 - 利用者には、私たちの表情や態度だけでなく、心も見られているということ意識しているか？

- ◆その日その日を大切に、最高の一日を。「明日」はないかもしれない。
 - 「明日」が来ることを当たり前と思ってはいないか？
 - 「今」やれることは「今」やっているか？ 来るかわからない「明日」に持ち越していないか？
 - 何かあった時、後悔するような関わりをしてはいないか？

- ◆「デイサービスあき」は最後の砦。その気概を忘れずに。
 - 職種や立場、資格や経歴に関係なく、それぞれがチームの一員として現場に立っているか？
 - 自分の仕事に、自信や誇りを持って働いているか？
 - 同時に、プロとしての責任感や使命感を持っているか？